

2023年度第2四半期決算説明会  
主な質疑応答

●全社

Q: 第2四半期の事業利益にマイナス影響があった在庫影響について、前年同期比と社内計画比、それぞれの主要因と規模感を教えてほしい。

A: 前年同期に対しては、2022年度の第2四半期は在庫増加に伴う利益の押し上げがあった一方で、2023年度の第2四半期は在庫減少局面であったことなどから、差異として100億円弱のマイナス影響があった。

社内計画に対しては、競合を含むチャンネル在庫過多影響を受けた SOHO・ホーム IJP 本体をはじめプロジェクターなどでも販売が未達となり、滞留在庫への評価減が増加したことなどにより、100億円弱のマイナス影響があった。

Q: 通期業績予想の事業利益に織り込まれている在庫影響について、第2四半期と下期、それぞれ前回予想からどのような変化があったのか。

A: 第2四半期は、社内計画に対して、滞留在庫への評価減の増加影響などにより事業利益に100億円弱のマイナス影響があった。

通期業績予想において下期には、滞留在庫を減少させることで大部分で評価損の戻入れを見込む一方、全般的に在庫を減少させることによる利益へのマイナス影響も織り込んでいる。

Q: 2023年度の通期事業利益予想について、スライド13にあるように、価格変動による押し下げ幅が前回予想より縮小している理由を教えてほしい。下期に想定以上に価格を引き下げる可能性はあるか。

A: 第2四半期に想定より価格が上振れした分などを反映した。価格が下期に低下するという予想に変わりはないが、現時点では想定以上に値下げをすることは考えていない。

Q: 2024年度における SOHO・ホーム IJP とマイクロデバイスの需要見通しを教えてほしい。

A: SOHO・ホーム IJP は、2024年度にインフレが落ち着くことで、本体が低価格のインクカートリッジモデルから大容量インクタンクモデルへのシフトをより進められると考えている。

マイクロデバイスは、2023年度に市場の在庫調整が進み、2024年度に市場が回復すると見込んでいる。

●プリンティングソリューションズ

Q: SOHO・ホーム IJP の市場環境を教えてほしい。

A: 第2四半期の市場は、前年同期に対して北米や東南アジアでセルスルーが増加した一方、中国や西欧などでは低調だった。

2022年度下期にメーカー各社の供給制約改善とともにチャンネルが仕入れを進めたが、需要は期待ほど増加せず、2023年度上期にはチャンネル在庫過多となった。第2四半期では調整が進み、足元では概ね通常の水準となっている。

Q: レーザー方式を中心としたオフィス複合機市場は低調だが、エプソンのオフィス共有 IJP への影響はどうか。

A: 足元でレーザーのチャネル在庫が多く、それらの在庫が解消するまでディーラーがインクジェットを十分に仕入れられないという事情もある。エプソンとしては、環境性能とメンテナンス性に優れるインクジェット方式に置き換え、販売を伸長させる方針に変わりはない。第 2 四半期ではオフィス共有 IJP の売上収益が前年同期に対して 30%以上伸長した。

以上